

## 音楽経験の与える効果

幼児期に音楽に触れるという事は、どんな効果があるのでしょうか。

大五京・大五洋では、どの園でも手遊びをしたり、ダンスや歌をうたったり、リズム合奏や鍵盤ハーモニカ、鼓隊演奏と、様々な音楽活動を取り入れています。

子ども達の日常生活にはいろいろな音楽があふれていて、この音楽経験が子ども達の発達に大きく関わってくると言われています。

例えば、歌や音楽を聴く事は「聴く」能力が発達します。

言葉の聞き取りも「音声」という音ですから、耳が良いと言葉の習得や理解力が高くなると言われています。

また、音楽を聴いている時は「右脳」が発達し、右脳は「考える力」や「ひらめき・感性」などを司る部分ですから、幼児期から右脳を活性化させる事で情緒が豊かになり、発想力も育ちます。

楽器の演奏には、「楽譜を見る」「音を聞く」「手を動かす」という複雑な動きを同時に行う必要があるため、動作と知覚の連携をスムーズに行う力、つまり運動能力も高くなると言われています。

音楽経験は、楽器演奏や音楽聴くだけではなく、例えば、風の音や川のせせらぎ、波の音など自然の音を聞いたり、身体をリズムに合わせて動かしたりする事も大切です。

子どもにとって「遊びの一種」が効果をもたらす音楽経験になります。いろいろな音と一緒に耳を傾け、身体を動かしてみませんか。